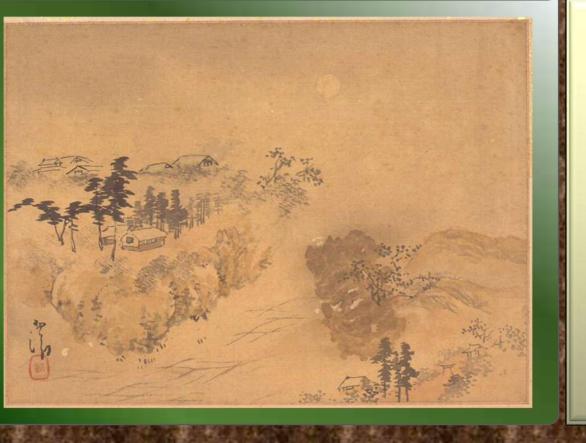
高台秋月



高台は名のみ残りて夜なく~に今は月のみすめる秋の夜 鷲楽天に一つ水に一つ高台の月は今宵のながめなりけり 同見上ぐれば今もさやけし三の丸高きうてなの秋の夜の月 若芝見上ぐれば今もさやけし三の丸高きうてなの秋の夜の月 居行出るよりくまとなるべき山もなくかげさしのぼる高台の月 陸行出るけんではとずれど残るこの城の名も高台のみの夜の月 唇径のようがらくまなく晴て些り渡る名も高台の月の影かな 一滅夜もすがらくまなく晴て些り渡る名も高台の月の影かな 一滅夜もすがらくまなく晴て些り渡る名も高台の月の影かな 一滅夜もすがらくまなく晴て些り渡る名も高台の月の影かな 一減夜もすがらくまなく晴て些り渡る名も高台の月の影かな 一減

三の丸は高きうてなも久方のくもるの月にかいる雲なし、春成をちこちの山てふ山をてる月もこの高台の露に寝れり、鶴成高台の月のかわらぬかげ見れば君や昔ぞ忍ばれにける、発丸今も尚あわれ昔のしのばれつ名も高台に月さゆる夜は 画造のも尚あわれ昔のしのばれつ名も高台に月さゆる夜は 画造

『平成28年度 さいたま市博物館年報』